



旅行と教育……経験の最大化に向けた掛け算

夏休みを前に学生と自由課題のテーマについてしゃべっていたら、「20世紀のもっとも偉大な発明って何だろう」という話になった。「偉大」といってもいろんな意味があるが、その時、私の頭に真っ先に浮かんだのは「クルマとパーソナルコンピュータ(PC)」だった。

まっ、まっ先にイメージしただけで、確たる根拠のある話ではない。20世紀という時代というより、20世紀に生まれ21世紀までたどり着いた私自身の生活がこの2つに大きく影響されている、と考えるからだ。そして、これからも世界のあり方に影響を与えるもっとも大きな要因であり続けるだろう……そういう印象レベルの話に過ぎない。

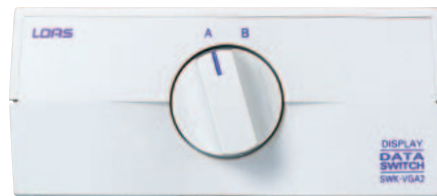
ではあるが、クルマとPCには重要なつながりがある、と私は考えている。それはまず、この2つがアメリカ的な土壌から生まれるべくして生まれた発明であるという点だ。「アメリカ的」とはどういうことなのか、ひと言で言えるはずもないが、ここでは旧世界の政府の干渉から逃れてやってきた強い個人による競争指向と言っておこう。

さて、クルマは土地や地域社会に縛り付けられていた私という個人を解放してくれる。私個人の身体を好きな時に好きな場所に連れていってくれる、文字どおり「私という肉体の乗り物」である。

一方、PCは紙というメディアに制限されていた私たちの知的活動を変えてしまった。別の言い方をすれば、ニーズに応じて多様なスタイルの情報を提供する、いわば情報世界における「私という意識の乗り物」的な存在となった。いや、過去とするにはまだ早いかもしれないが、少なくともそうなりつつあると言ってよいだろう。

これら2つのアメリカ的なパーソナルビークルは、かたや高速道路網、かたやネットワークといった現代の文明社会に不可欠な社会基盤と組み合わせられることで、地理的な、あるいは情報上の制約から個人を解放し、拡大・強化し、その活躍によって文明社会は新たなレベルに達することになった。

さらに言えば、2つのビークルに象徴される移動の自由への関心は、早晩「旅行」と「教育」という方向に向けて装置化され、巨大産業化するだろう。そして、この2つの経済領域の重なりの中に、私たち個々人にとっての究極の価値＝「経験」が演出されるのではないかと、いう予感がしている。



旅行と教育の間には、クルマとPCとの間より密接な関係がある。旅行を通じ、離れた地域を訪れ、異なった文化を体験することによって、私たちはより広い視野を得る。一方教育によって獲得する知識は、モノやコトをとらえる基盤を整え、見たり、感じたりする能力に深みを加える。

旅行による体験の拡大、教育による意識の深化、これら2つの「かけ算」によって導きだされる個人の経験は、かつてないボリュームに達することになる。それこそが21世紀社会の大きな目標の1つであり、当然情報ビジネスのコアになると思われる。

さてここで、現実には私たちの住んでいる日本という文化圏を見渡してみるとどうだろう。

まがりなりにも単体としてのパーソナルビークルは普及しているが、本来ならそれと相まって個人の自由を拡大し、能力を強化すべき社会基盤がどのような事態を引き起こしているか。21世紀社会は、個人に最大限の可能性を与えるネットワークという場を中心に、ダイナミックな競争が展開される世界となっている。それを考えると、私たちは、そのなかでどう振る舞うべきかを知らないアマチュアであることを認めないわけにはいかない。

しかし救いはある。競争社会は無法地帯ではない。競争であるからにはルールがある。初心者たる私たちはしばらくの間、すでにあるルールを学び、それに従わざるを得ないが、いつまでもルールが変わらないわけではない。いつの日か、自分からルールを、しかも誰もが可能性を感じ、おもしろがって加わりたいと思うような競争のルールをデザインすることを考えるのだ。

21世紀、経験の最大化が文明のテーマとなるかどうかはわからない。しかし、もしそれを望むなら、私たちはしばらくの間、競争を恐れず、群れない旅人として学ぶことを覚えるべきだろう。もちろん、それこそ楽しい経験となるはずだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp